

5月23日(土)

記念講演「幼児教育・保育とは」(講師 神戸大学大学院 北野幸子准教授)
第1回幼児教育ビジョン(仮称)策定懇話会 が開催されました。

平成27年5月23日(土)、舞鶴の幼児教育ビジョン(仮称)策定に向けて、記念講演と第1回懇話会が中総合会館コミュニケーションホールにおいて開催されました。記念講演には、多くの保育園・幼稚園・小中学校関係者約120名が参加し、神戸大学大学院准教授北野幸子先生から「幼児教育・保育」の基礎となる「乳幼児期の発達」や「教育・保育の考え方」、また「遊びや体験を通じて学ぶ」こと等乳幼児期に大切にしたい保育についてお話を聞きました。

記念講演後には、第1回策定懇話会も開催され、懇話会員による意見交換がなされました。また、記念講演と懇話会には、保育園・幼稚園・小中学校の先生方から構成されます作業部会の皆さんもご参加いただき、今後の議論を進めていく上で大変貴重な機会となりました。

よりよい舞鶴版の幼児教育ビジョン(仮称)を策定するために、多くの方に関わっていただき、関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

記念講演「幼児教育・保育とは」

0～8歳の時期は、体験、経験的に学ぶ時期。
子どもは耳からは学ばない、体験から学ぶ。体験を伴わない言葉だけからは学ばない。
9歳以降は、概念的に学ぶ時期。(文字等を通して学ぶ)



<乳幼児期の保育の基本>

◎0歳の愛着が、その後の他者への思いやりや規範意識(ルールや約束を守ろうとする気持ち)の基礎となる。

◎子どもの育ちの根幹は、基本的信頼感である。温かいまなざし(関心)と過度でない期待が必要である。

◎0～8歳の時期は、体験、経験的に学ぶ時期。9歳以降は、概念的に学ぶ時期(文字等を通して学ぶ)。

◎だからこそ、気持ちや意欲に基づいた体験が必要である。それは、まさに遊びの中にあり、遊びながら学ぶことである。

◎意欲的な活動や体験にするためには、子どもの興味・関心を起点にすることが重要である。主体性を尊重することにもつながる。

<乳幼児期の社会性をはぐくむ保育>

◎自我、自己中心性「自分が」「自分で」⇒他者への意識・共感へと発達していく。

◎自己の確立、人への信頼感(愛着関係)が基礎となり、自己肯定感が形成される。好きな友達と好きな遊びに没頭することが、他者への関心となる。また、他者への思いやりや協同体験から共同性が生まれ、集団への意識ができるようになる。集団の中での役割があり、役立ち喜びを感じること(自己有用感)が規範意識を育み、その後の「市民性」の教育につながる。

◎しつけの語源は、しつけ糸。裁縫でいう「しつけ」は、「ちゃんとまっすぐに縫えるように」、「あらかじめ目安になるような縫い取り」をしておくことである。子育

てでいう「しつけ」は、自立するために、自分で判断できるように援助することである。

しつける人としつけられる人との相互の信頼関係が基本にあり、子どもの自己肯定感につながる関わり方(褒め方、叱り方等)が必要である。

◎子どもの規範意識、また、人権意識を育てるには、モデルとなる保育者自身の規範意識や子どもに対する人権意識が重要である。

◎子どもは耳からは学ばない、体験から学ぶ。体験を伴わない言葉だけからは学ばない。体験の差は、語彙の差でもある。特に2～3歳頃には、気持ちを表す言葉を獲得する時期である。

<乳幼児期の学びに向かう力を

はぐくむ保育>

◎「おもしろい」「なんでだろう」「やってみたい」と思う気持ちと、わかることができることが楽しい、うれしいと感じる気持ちを育てることが学びに向かう力を育てる。

◎これからの教育は、暗記型・記憶重視・結果主義から、活用型・展開重視・文脈主義へと転換している。※1

◎遊びの中で「自分で考える」「自分で決める」「自分で行動する」こと。

◎「幼児期の遊び≡学び」から児童期の学びへつなげるためには、保育者も学習指導要領をしっかりと見ておく。

◎与えられた体験ではなく、自らやりたい体験へ…例：体操・水泳・サッカー等の特

別な指導よりも、日々の遊びの中で個々が興味のある遊びを十分に楽しむ方が幼児期に必要な運動面の発達が促される。

※2

◎乳幼児期の今を大切にするために

- ・自己主張が認められているか?
- ・主体性が発揮されているか?
- ・指示・命令を浴び続けていないか?
- ・お稽古ごとに追い立てられていないか?
- ・子どもとその周りの大人が幸せか?

※1 OECD(経済協力開発機構)は、欧米諸国、アメリカ、日本などを含む約30か国の加盟国によって構成されており、世界中の人々の経済や社会福祉の向上に向けた政策を推進するために活動を行っている国際機関。OECDでは、各国の教育改革の推進と教育水準の向上にむけて、次世代を生きるための3つのキーコンピテンシー(主要能力)について提言している。

- ①自律的に活動する能力(個人の自律性と主体性)
- ②異質な集団で交流する能力(自己と他者との相互関係)
- ③相互作用的に道具を用いる能力(個人と社会との相互関係)



※2 参考資料

『幼児期運動指針』文部科学省（平成24年3月）より抜粋

幼児期は、生涯にわたる運動全般の基本的な動きを身に付けやすく、体を動かす遊びを通して、動きが多様に獲得されるとともに、動きを繰り返し実施することによって動きの洗練化も図られていく。また、意欲をもって積極的に周囲の環境に関わることで、心と体が相互に密接に関連し合いながら、社会性の発達や認知的な発達が促され、総合的に発達していく時期である。

また、遊びとしての運動は、大人が一方向的に幼児にさせるのではなく、幼児が自分たちの興味や関心に基づいて進んで行うことが大切であるため、幼児が自分たちで考え工夫し挑戦できるような指導が求められる。なお、幼児にとって体を動かすことは遊びが中心となるが、散歩や手伝いなど生活の中での様々な動きを含めてとらえておくことが大切である。

(1) 多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること

幼児が自発的に様々な遊びを体験し、幅広い動きを獲得できるようにする必要がある。幼児にとっての遊びは、特定のスポーツ（運動）のみを続けるよりも、動きの多様性があり、運動を調整する能力を身に付けやすくなる。幼児期には体を動かす遊びなどを通して多様な動きを十分経験しておくことが大切である。

(2) 楽しく体を動かす時間を確保すること

文部科学省調査では、外遊びの時間が多い幼児ほど体力が高い傾向にあるが、4割を超える幼児の外遊びをする時間が一日1時間（60分）未満であることから、多くの幼児が体を動かす実現可能な時間として「毎日、合計60分以上」を目安として示すこととした。幼児にとって、幼稚園や保育所などでの保育がない日でも体を動かすことが必要であることから、保

育者だけでなく保護者も共に体を動かす時間の確保が望まれる。

(3) 発達の特性に応じた遊びを提供すること

幼児は、一般的に、その時期に発達していく身体の諸機能をいっぱいを使って動かそうとする。そのため、発達の特性に応じた遊びをすることは、その機能を無理なく十分に使うことによってさらに発達が促進され、自然に動きを獲得することができ、けがの予防にもつながるものである。また、幼児の身体諸機能を十分に動かし活動意欲を満足させることは、幼児の有能感を育むことにもなり、体を使った遊びに意欲的に取り組むことにも結び付く。

したがって、幼児期の運動は、体に過剰な負担が生じることのない遊びを中心に展開される必要がある。発達の特性に応じた遊びを提供することは、自発的に体を動かして遊ぶ幼児を育成することになり、結果として無理なく基本的な動きを身に付けることになる。



第1回 懇話会

◎ビジョンの意義：公立私立、校種の違いを超えて、支援の必要な子どもの教育・保育、地域や家庭での教育すべてを含めた教育・保育に対するビジョンをいっしょにつくる。

◎次世代を育成する専門職として、保育園・幼稚園・小学校・中学校のそれぞれ

の先生が互いに尊敬や敬意を持ちつつ、それぞれの持つ専門性の違いを超えて、お互いの独自性を尊重しつつ、育てたい子ども像の共有を図っていく。

◎子どもの自尊感情（自己肯定感）を育て、個々の個性を伸ばすには、主体性の尊重をした教育・保育が重要である。

◎幼児教育：保育のあり方・方法を保育所保育指針や幼稚園教育要領との整合性を図りながら、「生活と遊びを中心に」「主体性の尊重」「発達」「環境を通じた教育・保育」…をキーワードにしていきたい。

◎「設定保育」「自由保育」どちらか一方がよいのではない。好きな遊びの時間（自由遊び）の中に、少人数の小規模の設定保育が同時進行でおこなっているとらえる。子どもの主体性は尊重するが、やはり5領域の内容との関係、育てたい子ども像、子どもにつけさせたい知識や技術、そして環境をどう設定するか、保育者がどんな言葉かけをするのか等の教育的意図（ねらい）を持って関わるのが大事である。主体性を尊重するといって放っておくのもなく、保育者の指示・命令ばかりの一斉型の保育でもない。

◎保幼小中の先生が、それぞれの課題を認識し、0～15歳を見通し、育ちをつなげるために接続期教育、保幼小中の連携は重要。

◎子どもの育ちの連続性を考えた時に、家庭・地域との連続性も重要になってくる。

◎保育園・幼稚園は、家庭の教育機能をいかにサポートするために、支援するのではなくサポートナーにしていくことが大事。幼児教育・保育の専門職として啓発し、子育ての当事者である保護者を巻き込んでいく。



懇話会委員名簿

| 所 属 | 役職等 | 氏 名 |
|-------------------|--------|------------|
| 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 | 准教授 | 北野 幸子（会長） |
| 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 | 教授 | 溝邊 和成（副会長） |
| 舞鶴市私立幼稚園協会 | 会長 | 松嶋 康晴 |
| 舞鶴市民間保育園連盟 | 会長 | 森 宏昭 |
| 舞鶴幼稚園 | 園長 | 隍 政司 |
| 西乳児保育所 | 所長 | 西嶋 明美 |
| 舞鶴市小学校長会 | | 大久保 智子 |
| 舞鶴中学校長会 | 会長 | 阿部 秀雄 |
| 舞鶴市教育委員会 | 委員 | 小瀬木 良和 |
| 舞鶴市PTA連絡協議会 | 副会長 | 有本 弓美 |
| 舞鶴市PTA連絡協議会 | 母親副委員長 | 齋藤 久美子 |
| 舞鶴市民生児童委員連盟 | 副会長 | 山田 雅子 |
| 舞鶴子ども育成支援協会 | 会長 | 角倉 泰弘 |
| まいづる子育てサークル連絡会 | | 大滝 みと |
| 公募 | | 嶋田 知子 |
| 公募 | | 藤村 文美 |

今後の日程

<懇話会>

- 第1回 5月23日（土）
- 第2回 7月13日（月）
- 第3回 8月20日（木）
- 第4回 10月15日（木）

<作業部会>

- 第1回 5月26日（火）
- 第2回 6月23日（火）
- 第3回 7月 6日（月）
- 第4回 8月 5日（水）
- 第5回 9月 3日（木）

